

『1番大切な教え』

'21/08/08

聖書箇所: マルコの福音書 12章 28-34節 (新約 p.92-)

私たちは、毎週、神様が与えてくださった聖書のみことばを学んでいます。今日は、その聖書の中でも、最も重要なみことばとも言い得る、あるエピソードから学んでいきたいと思えます。どうして、今日のみことばが、最も重要なみことばと言い得るのかと申し上げますと…、ある人物が発した、「聖書の中で、1番大切な教えはどれですか？」という質問に対して、イエス様ご自身が、「1番大切なのは、これです。…」と言って、教えてくださったのが、今日のみことばであるからです。

命題: イエス様が教えてくださった、1番大切な教えとは何だったでしょう？

そこで今日、私たちはマルコ 12章に記されてある、みことばと一緒に学んでいくことによって…、この聖書が教えてくれている1番大切なことを、私たちが、より正しく理解できていくことを願います。果たして、イエス様が教えてくださった、1番大切な教えとは、どういったものなのでしょう？また、一体どうして、この教えが1番大切なのでしょうか？そうして、また、この教えを実践した場合に伴う結果とは、どういったものなのでしょう？

今日は、そういったことを今から一緒に確認をしていきたいと思えます。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、主なる神様の“みこころ”というものを理解することができ…、皆さんが、その神様からの祝福をますますご自分の手にしていってくださいますことを願うものです。まずは、今日のみことばである、マルコ 12:28-34 を、こちらの方で読ませていただきます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ 12:28-34 をお開きくださいますようお願いいたします。

28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」

29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。」

33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者がなかった。

I・主なる神を、全身全霊の愛で愛する！(28-30節)

まずは、今読んだみことばの内、28-30節の部分に注目をしていきたいと思えます。そこで、イエス様が教えてくださっていることは、この神様のことを、私たちが、“全身全霊”の愛でもって愛するべきである！ということであり、そのことを、今から、もう少し詳しく確認していきましょう。

●聖書が教える 神様 とは？

どうぞ、まずは、ここ 28節のみことばに注目してみてください。この時、イエス様のところへ、「ある一人

の律法学者がやって来て、イエス様が様々な難問に対して、見事に答えられたのを見て、イエス様に、ある質問をした」ということが記されてあります。実は、このみことばの平行記事であるマタイ伝を見てみますと、その律法学者は、『イエス様をためそうとして、尋ねた。』(マタイ 22:35)ということが記されてあります。

どうか、皆さん、誤解をしないでください。確かに、この聖書全体を見ても、「律法学者」という者たちは、決して、良いイメージで記されてありませんが、そもそも、彼らは、神のみことばである聖書に通じており、それを学校や会堂などで民衆たちに教えるような働きをしておりました。言わば、民衆たちから尊敬されるような“教師”であったのです。

さて、この時、イエス様のもとへやって来た律法学者は、イエス様のことを『ためそうとして』、質問をした、ということが記されてあります。「ためす」と聞くと、何だか、悪いイメージがあつて…、この時、律法学者が、イエス様に悪意を持って…、つまり、何か悪い動機で、この質問をした、と思われるかも知れませんが、決して、そうとは限りません。確かに、ここマタイ 22章で使われてある言葉(πειράζω)は、「(例えば、悪魔が)誘惑するとか、他人を悪い方向へ誘(いざな)う…」というような場合にも使われ得ますが…、純粋に、「(何かの物事を)試験する、吟味する…」という場合にも使われる言葉なのです。しかし、今日のみことばの最後で、イエス様が彼に対して、『あなたは神の国から遠くない』とおっしゃられたことから察すると、恐らく、この律法学者は純粋な動機から、イエス様に、この質問をしたのだと思われます。

さて、その律法学者がイエス様にした質問は、こうでした、『すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか？』って…。皆さんもご存知のように、この聖書の中には、それこそ、数え切れないほど、たくさんの教えや命令などで溢れています。…「じゃあ、その中で、どれが1番大切なのですか？」というような質問は、この律法学者でなくても聞きたくありません？(笑)

そこで、イエス様が答えになったのが、今日のみことばの 29-30節のみことばです。…ここ 29-30節のみことばをよーくご覧くださいますと、イエス様のおっしゃられた言葉の中に、二重カッコが使われてあります。これは、イエス様が、その言葉を、どこから引用されたということです。

実は、その言葉は、旧約聖書の申命記 6章のみことばです。どうぞ、もし、聖書をお持ちでしたら、申命記 6:4-7をお開きください。そこには、こう記されてあります、『4 聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。6 私がきょう、あなたに命じるこれらのごとばを、あなたの心に刻みなさい。7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。』と続いています。

⇒このみことばは、天の神様が、あのモーセを通して、イスラエルに語ってくださったお言葉です。ここ 6-7節のみことばが、「あなたの心に刻みなさい！(とか)あなたの子どもたちによく教え込みなさい！(とか)あなたが何をしても、これを唱えなさい！」と教えているように、このみことばが、如何に大切であるかが伝わってきます。…実は、ここ申命記 6:4以降のみことばを、敬虔なユダヤ人たちは「シエマー」と呼んで、彼らは毎日、このみことばを暗唱していたのです。「シエマー」と言いますのは、ここ申命記 6:4にある「聞きなさい」という言葉のヘブル語から来ています。

さて、ここで、皆さんに、この聖書のみことばが教えてくれている“神様”について分かっていただきたいと思えます。…と言うのは、ここ日本で考えられている神様と、聖書が教える神様とは、全く違う可能性があるからです。…ここでイエス様が教えてくださったように、聖書が教える神様とは、唯一の存在です。他にはおられません！この神様は、私たちが目にする、この自然界も…、この地球も…、この宇宙全体も、すべてのものを造られ…、すべてのものを、今もみこころのままに御支配なさっておられる、唯一の造り主であられ、また、主権者でもあられるのです！

● どのように愛するのか？

実は、ここ 30 節のみことばを、元々書かれた言葉であるギリシヤ語で観察してみると、こういった順番で書かれてあります。「あなたの神である主を愛せよ！あなたの心を尽くし、あなたの思いを尽くし、あなたの知性を尽くし、あなたの力を尽くして…」って…。まずは、神である主を愛すべきことが命じられてあって、次に、それを説明する言葉として、「心を尽くし、思いを尽くし…」という言葉が続いているのです。

どうか、皆さん、ここ 30 節で、イエス様が神様のことを、何とおっしゃっておられるかに注目してください。…何とあります？ここで、イエス様は、『“あなたの神”である主を愛せよ！』とおっしゃるのです！…そのことから分かりますことは、イエス様は、「まず、あなたが、この造り主なる神様と個人的な関係にならなければならない！」ということをおっしゃっているのです。…あなたは、この神様のことを知っている以上に、この神様のことを信じ受け入れておられますか？この御方のことを、あなたの主人として迎えておられますか？…いかがでしょうか？そういったことを抜きにして…、皆さんがこの神様のことを愛するなんていうことはできっこありません。

その次に、イエス様は、こうおっしゃっています、『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして…』って…。まず、この、『心』とは何でしょう？⇒「心」とは、元々の原語であるギリシヤ語の辞書や聖書で用いられている例などを見てみると、「私たちの行動をコントロールする場所」であります。(胸を指して)心こそが、私たちの様々な考えや行動の源なのです。だから、イエス様は、あの「山上の説教」で、『だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。』(マタイ 5:28)とおっしゃられたのです。心こそが、私たち人間の原動力であり、1番の中心部分なのです。

また、『思い』とは、簡単に言うと、「私たちの感情を支配しているところ」です。先程の「心」と似ていますが、強いて言うなら、もう少し、心よりも外側にあるようなイメージかも知れません。その次の、『知性』とは、「私たちの知識や理解」を言います。最後の、『力』とは、「自分が決めたところへ進んでいこうとする決意のほど」です。

そうして、このみことばでは、『～を尽くして』と翻訳されてある部分ですが、原語のギリシヤ語では、心や思い…、知性と力、それらすべての単語とセットになって「すべての…」という単語が毎回毎回使われてあります。…つまり、これらのみことばを通して、イエス様が教えてくださったことは、「あなたの神である主を愛しなさい！あなたの心すべてをもって…、あなたの思いのすべてを集中して、また、あなたの知性をすべて使い、あなたの力をすべて注いで、この神様を愛しなさい！」ということなのです。

また、ここで、『…愛せよ！』と訳されてある表現には、ギリシヤ語の「アガパオー」(ἀγαπάω)という言葉が命令形(現在命令法)で、しかも、時制は未来形です。「アガパオー」の愛とは、例えば、神様が私たち人間に示してくださった自己犠牲の愛である、「アガペー」という言葉の動詞形です。…と言うことは、つまり、神様が私たちのことをアガペーの愛で愛してくださったのと同じように、あなたもまた、神のことを愛していきなさい！ということなのです。だって、神様が、私や皆さんのことを愛してくださった時、決して、神はいい加減な愛や、中途半端な愛でもって、愛されなかったでしょ？だから、例えば、ヨハネ 3:16 を見ても、こう教えられてあります、『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。…』って…。天の神様は、私や皆さんのことを、それこそ、御自分のひとり子をさえ惜しまないほどの大きな愛でもって愛していただきました。

そのような愛でもって…、しかも、「あなたの心のすべてをもって…、あなたの思いのすべてを集中して、また、あなたの知性をすべて使い、あなたの力をすべて注いで、この神様のことを愛しなさい！」とイエス様はおっしゃいます。…それこそが、イエス様の教えであり…、また、この聖書全体が私たちに命じている内容なのです。

II・あなたの隣人を、あなた自身のように愛する！(31 節)

その次に、このみことばからイエス様が教えてくださっていることは、あなたの隣人を、“あなた自身”のように愛する！ということであり、実は、そういったことも、先程見た教えと同じほど大切なことなのです。

● イエス様が教えてくださった 隣人 とは？

どうぞ、今日のみことばの 31 節以降をご覧くださいと、そこでイエス様は、『次にはこれです。…』とおっしゃって、もう1つの命令を教えてくださいました。それが、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！』という命令です。

例えば、クリスチャンの皆さんは、こんなみことばをご存知だと思います。イヨハネ 4:20-21、『20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。』って…。もしも、皆さんがイエス様を信じて救われているのなら、皆さんは、その同じ救いに預かっているクリスチャンたちのことを愛するし…、愛そうとするはずですよ。だから、教会というところは、罪人たちの集まりでありながら…、そこにはキリストにある一致が見られ…、と同時に、神様の栄光が現わされていくのです。

また、ルカ伝 10 章には、こんな例え話も載っています。今日は、もう時間の関係で、聖書のみことばを開きませんが、多分、皆さんはご存知です。…その時も、イエス様のもとへ、ある律法の専門家がやって来ました。その専門家は、イエス様に、こう質問をします、「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか？」って…。すると、その律法の専門家は、今日のみことばでイエス様が教えてくださったのと同じような返答をします。①「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ！」②「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！」って…。

しかし、その律法の専門家は、自分の正しさを示そうとして、こんなことをイエス様に言います、「では、私の隣人とは、誰のことですか？」って…。すると、イエス様は、「良きサマリヤ人(じん)の例え」を話されたのです。…当時、ユダヤ人たちとサマリヤ人たちは、仲たがいをしておりました。つまり、仲が悪かったのです。しかし、その例えの中では、神様に仕えているはずの祭司も、レビ人も、強盗に襲われた人のことを見て見ぬふりをしたのに…、何と、仲たがいをしていたはずのサマリヤ人が、強盗に襲われて困っていた人を誠心誠意、介抱してあげたのです。そうして、イエス様は最後に教えていただきました、「このサマリヤ人のしたこそが、本当の隣人愛であって、あなたも行って同じようにしなさい。」って…。そうだったでしょ？

…実は、この当時、イスラエルで教えられていた隣人とは、自分たちの同胞であるユダヤ人であって、外国人たちではありませんでした。しかし、イエス様は、そういったような人種や性別の差別をすることなく…、また、敵味方の関係なく、あなたの周りで困っている人たちがいたら、その人たちこそ、あなたの隣人である！ということをおっしゃったのではないのでしょうか！

だから、イエス様は、あの「山上の説教」で、こんな風に教えてくださったのです。『46 自分を愛してくる者を愛したからといって、何の報いも受けられないでしょう。取税人でも、同じことをしてはいませんか。47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。』(マタイ 5:46-48)って…。もちろん、こういったことは簡単なことではありません。しかし、それこそが、神様のみことばであり…、天の神様が、私や皆さんに期待しておられることなのです。

●現代日本におけるキリスト教会の問題点

でも、実は、このみことばから、現代の日本では多くのキリスト教会で、少々、おかしいことが教えられてあります。…どうぞ、できましたら、今日のみことばである31節に注目してみてください。このみことばには、こうあります、『次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。』って…。

この教会の方は、ご存知です。…ここでは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！」とあります。つまり、「まずは、私たちが自分自身を愛することです。自分自身を愛することができて、初めて、あなたの隣人を愛することができるのですよ！」って…。つまり、優先順位としては、隣人よりも、あるいは、神よりも、まず、自分自身が先だと言うのです。だから今、多くの教会では、「まずは、自分自身のことを愛しなさい！」ということが、まるで、聖書の教えであるかのように、ほとんどの教会で教えられてあります。確かに、自分を愛するという事は、一見、必要なことで、また、素晴らしいことのようにも思えます。…しかし、本当に、それは、聖書の正しい理解なのでしょうか？

どうか、皆さん…。イエス様が、民衆たちに対して、例えば、どういった招きをしておられたかを思い出してみてください。イエス様は、何度も、ご自分についてこうとした者たちに対して、こうおっしゃいませんでした？⇒マルコ 8:34 には、こう記されてあります、『それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、“自分を捨て”、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』って…。このように、イエス様は弟子たちに対して、また、群衆に対して、「自分を捨てなさい！」ということをお教えされたのではなかったのでしょうか？

それにまた、あのパウロは、この世の終わりが近づいてくると、ますます、困難な時代がやって来るということを教えてくれています。そのみことばであるⅡテモテ 3:1-5 には、こうあります。『1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、3 情け知らずの者、和解しない者、そしめる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。』って…。⇒皆さん、聞いてくださいました？…果たして、私たちが必要以上に自分を愛することは問題ないのでしょうか？

また、最後に、今日私たちが学んだみことばです。この聖書全体は、「あなたの全身全霊をもって神である主を愛せよ！」と教えます。それこそ、「あなたの心を尽くして、あなたの思いを尽くして、あなたの知性を尽くして、あなたの力を尽くして…」って！そうでしょ！この教えは、私たちが、それこそ、100%の心や思いを使って、神様を愛すべきことを教えてくれています。…じゃあ、果たして、その私たちが、この神様のこと愛する“以上に”、誰か他の存在を愛することができるのでしょうか？…皆さんは、どう思われますか？

私は、こう理解しています。私たちクリスチャンは、それこそ、100%の心、100%の思いや知性、力を尽くして、神である主を愛すべきなのです！…そんな風に、私たちが神様のこと愛すると、もう私たちは、それ以上に何か他の存在を愛することはできません。だから、イエス様も、例えば、**マタイ 10:37** などで、『わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。』と教えてくださったのです。

このように、天の神様を…、また、三位一体なる神であるイエス様を1番に愛することが、神様のみことばなのです。そうして、私たちがそのみことばに従っていく時に、聖なる神様が私たちのことを満たしてくださるのです！だから、私たちが隣人を愛せるのも…、嫌いな人を愛せるようになっていくのも、また、私

たちの家族や友人たち、教会の兄弟姉妹をアガペーの愛で愛せるのも、私たちの能力や努力ではなくて、天の神様がそういったことをなしてくださるからなのです。

だから、今日のこれら2つの命令は、2つのように見えて、実は、1つなのです！…と言うのは、もしも、私たちが、真の神様のことを信じて、その神様との健全な関係を築くことができ、その神様のことを100%の愛でもって愛せたら…、例えば、あのピリピ 2 章が教えてくれているように、その神様が、私たちにみこころを示してくださって、神様が私たちを通して、みこころをなしていただくからです。

Ⅲ・神に従おうとする者に与えられる 祝福 ! (32-34 節)

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻ってくださいます？その 32-34 節をご覧くださいと、**神様に従おうとする者たちに与えられる“祝福”**について教えられてあります。最後に、そのことを一緒に確認していきましょう。まずは、もう1度、今日のみことばの 32-34 節をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

- 32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。
- 33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」
- 34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者がなかった。

●神が与えてくださった救いの方法＝ イエス・キリスト

この時、イエス様のところへやって来て、質問をした律法学者は、イエス様のおっしゃったことを理解して、同意してくれたように見えます。それが、32-33 節の部分です。彼は、この 33 節で、**神様のみこころに沿うことが、『どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。』**と言って、あのローマ 12:1 も教えてくれている真理…、つまり、目先の捧げ物よりも、私たち自身が、「生きた供え物として」神様に従うべきだということを、この律法学者はある程度、理解できているように見えます。

だから、この 34 節は、**こう言うのです。『彼が賢い返事をした』**って…。そうでしょ！しかも、彼の返事を聞いて、イエス様自身もこうおっしゃるのです、『**あなたは神の国から遠くない**』って…。このように、この律法学者は良い反応をイエス様に返したのです。

ところで、この時、イエス様がおっしゃられた『**神の国**』というのが、「罪の赦しである、救い」を表わしているというのは間違いありません。…でも、それはどういうことなのでしょう？…実は、この律法学者がイエス様に質問してきたように、この聖書にこそ、救いの方法が記されてあるからです！そうでしょ！

だから、イエス様も、ある時、こんな風に教えていただきました。『**39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。』**(ヨハネ 5:39-40) って…。良いですか、皆さん。すべてを創造された造り主なる神様は、私たちに、神様からのメッセージを送ってくださっています！しかし、それは、この聖書に限定されています。この聖書“以外”に、神様からの明確なメッセージや神様からのお言葉はありません！だから、私たちは、この聖書を学ぶ以外に、その神様のみこころや救いの方法について、正しく知ることはできないのです。

そうして、この聖書のみことばは、旧約聖書であろうと…、新約聖書のみことばであろうと、間違いなく、イエス・キリストに焦点を当てて書かれてあります。だから、私たちは何よりも、このイエス様について正しく知らなければならないのです。しかし、ここでイエス様ご自身がおっしゃっておられるように、多くの人たちが、聖書の教えをサラッと学んだだけで満足して…、その聖書が教えてくれているイエス様について、十分に調べようとしない…。そのイエス様のことを信じようとしないのです。…ひょっとしたら、今日、このメッセージを聞いてくださっている皆さんの中にも、そういった方がおられないでしょうか？…どうか、この聖書が…、あるいは、イエス様が、私たちが救われるための方法について、どう教えてくれているか。そういったことを、いい加減に済ませることなく…、しっかりと学んでいただきたいと思います。

● 神が期待しておられること？ ⇒ 理解 + 信仰

どうぞ、もう1度、今日のみことばの 34 節をご覧ください。…ここで、イエス様は、聖書全体を貫いている大切な教えを理解したような律法学者に対して…、その賢い返事をした律法学者に対して、『あなたは神の国から遠くない。』とおっしゃいました。…つまり、聖書の教えを理解しただけでは救われ得ないのです！…そうでしょ？

確かに、この聖書の教えは大事です。この聖書の教えを理解することなくして、私たちは救われ得ません。しかし、それと同時に、この聖書のみことばが教えてくれていることは、私たちが、この聖書の教えを理解しただけでは不十分…、つまり、救われ得ないのです！

ですから、例えば、ローマ 10:9-10 では、こう教えられています、『9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。 10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。』って…。

⇒このように…、確かに、聖書のみことばは真実で、真の神様からのものです。しかし、その真理を知っただけでは救われません！私やあなたが救われるために、天の神様が与えてくださった方法は、救い主であられるイエス様を信じる信仰以外には無いのです！…しかし、この律法学者は、その信仰を持つまでには至っていませんでした。だから、イエス様は、『あなたは神の国から遠くない。』つまり、「あなたは大切なことを理解できたが、まだ救いには至っていない…」という趣旨のことを言われたのです。

< 励ましの言葉 >

ですから、今日、私が皆さんにお勧めしたいことは、どうか、この聖書の教えを理解して下さるだけでなく…、天の神様が、せつかく、あなたに対して、救いの手を伸ばしてくださっているのに、それを無視しないで、願わくは、今日、イエス様を信じて救われてくださることです！

ヘブル 11:6 のみことばは、『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求めらる者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。』と教えてくれています。皆さんが、毎週、このようにして、オンライン礼拝であろうとなかろうと参加して下さって…、聖書のみことばを熱心に学び、それを実践してくださっているなら、それは喜ばしいことです。しかし、もしも、あなたがイエス様を信じる信仰をお持ちでないなら、残念ながら、神様に喜ばれることはないし、救いに預かることもできません。

ですから、どうか、1日も早く…、いえ、今日の内に、イエス様を信じて救われてくださることです。このイエス様を信じる以外に、あなたが救われるために必要なことはありません。…と言うのは、あなたが救われるために必要なことは、もうすべて、神様がなしてくださったからです。

そうして、救われた者に起こることが、今日、私たちが学んだように、その人たちは、①神様を全身全霊の愛でもって愛そうとするし…、また、②あなたの隣人をあなた自身のように愛することができていくので

す。…と言うのも、愛と恵みに満ちた全能なる神様が、あなたの内に居て、あなたの内側から、皆さんのことを助け励ましていってくださいからです。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。